

氏名	谷 口 珪 二		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博乙第 1898 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和 63 年 6 月 30 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	医療受診状況と事業所診療所の役割		
	第 1 編 年齢階層別の検討		
	第 2 編 職種別の検討		
論 文 審 査 委 員	教授 緒方正名	教授 木村郁郎	教授 田辺剛造

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

職場集団の医療受診状況を分析して、保健医療要求の特性を把握し、職場における Primary medical care を担当する産業医の専門的機能を検討する目的で研究を行った。

その結果、加齢に伴って受診率は高くなり、受診状況、診療内容も増加し、医療費も高くなっており、職種によっても受診状況、診療内容に差が認められた。事業所内診療所と外部医療機関における受診内容については、受診件数、日数、医療費にも相違が認められた。疾病休業取得状況についても加齢現象・職種によって相違がみとめられた。

これらの結果より、事業所内診療所が職場における保健活動を展開する際には、加齢や職務内容による受診動向や医療要求の相違を考慮しておこなうことが必要であり、外部医療機関とは異なった Primary medical care としての機能を持つべきであることが明かとなった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、職場集団の医療受診状況を分析し、Primary medical care を担当する産業医の専門的機能を検討したものである。受診者は加齢に伴って受診率、及び医療費は上昇し、又、受診状況、診療内容が増加した。職種では事業所内診療所と外部医療機関の受診内容の差異が示され、事業所内診療所が職場の保健活動を展開する際は、加齢、職務内容による受診動向や医療要求の相違を考慮する必要性を認めた。

上述の業績は価値あるものとし、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。